

令和4年度 アザレア幼稚園における自己評価

S；十分達成している A；ほぼ達成している B；検討を要する C；改善を要する

項目	内容	評価	備考欄
教育・保育目標について	目標の具現化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか	A	
	目標は、施設や地域の特徴や特性を生かしているか	A	
	目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか	A	
	目標は、前年度の反省を生かしながら全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか	A	
教育・保育内容について	保育計画・指導計画は、「全体的な計画」に基づいて作成しているか	A	
	毎月の指導計画は、乳幼児の実態に即して作成しているか	A	
	月毎に指導計画の評価・見直しをし、その結果を次月の指導計画に反映させているか	A	
	一日の流れ（日案）は、前日の評価をもとに日々改善に努めているか	A	
	行事のねらいに沿った計画を立て、適切に実施しているか	A	
	幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく援助・支援を適切に行っているか	A	
	自主性や主体性を重んじて生活習慣が身につくようにしているか	A	
	こどもの姿を見取り、興味関心に応じた教育・保育を行っているか	A	
	子どもの発達や成長につながるよう環境の構成や援助の工夫をしているか	A	
	同僚性を発揮し、保育のねらいや育てたい力を話し合い実施しているか	A	
	素材・用具を適切に活用しているか	A	
	保育サポートのための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮しているか	A	
	子どもの人権に十分配慮し、互いに尊重する心を育てているか	A	
健康・安全について	食育を通して、子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫しているか	A	
	食物アレルギーは、個別に配慮して食事を提供しているか	A	
	年齢にあった保健衛生対策（発育・発達の把握、SIDS予防、感染症対策等）を講じているか	A	
	健康・安全な生活に必要な習慣や態度が身につくよう取り組んでいるか 保護者に啓発しているか	A	
	避難訓練や交通安全指導を計画に基づいて適切に実施しているか	B	
	乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか	A	
職員の資質向上	研修ニーズを把握し、職員に必要な研修機会を確保しているか	A	
	研究主題は、教育・保育目標の具現化につながるものであるか	A	
	研究・研修の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか	A	
	各種研修会、講習会等での内容を園内に還元しているか	A	
	園長、副園長、教頭の管理職は、公正で公平な園管理運営に努めているか	A	
	運営リーダー（主幹保育教諭・副主幹保育教諭・クラスリーダー）は、機能しているか	A	
	職務内容や相互の連携に必要な情報の共有方法は、明確で協働できる体制になっているか	A	

職員体制について	職員を適材適所に配置し、係や仕事分担が機能的に行える組織になっているか	A	
	各種会議や打ち合わせを適切かつ効率的に進めているか	A	
	職員は組織人としての責務や職場での立場を理解し、協力を惜しむことなく運営に関わっているか	A	
	運営改善の課題について意識し、計画的な取り組みを行うとともに、定期的に見直しをしているか	A	
守秘義務の遵守	乳幼児や保護者、職員に関する個人情報については適切に保管しているか	A	
	職場で知りえた園児・保護者・職員の情報を知人や家族等に漏洩していないか	A	
	園児の写真や動画等を園外に届け出無しで持ち出していないか	A	
	名簿や保護者に関する書類を机上に置いたりしていないか 廃棄はシュレッダー処理しているか	A	
	文書收受、発送、処理を適切に行っているか	A	
開かれたこども園づくり	他施設等（姉妹園・小・中・高）との交流計画は、保育目標や課題にそったものになっているか	A	
	地域コミュニティの人々とのふれあいや交流を通して、乳幼児が楽しく過ごせるようにしているか	A	
	合同研修会や授業・保育の相互見学を通した保幼小連携の取組みに積極的に取り組んでいるか	A	
	乳幼児の興味関心に基づいて、地域の施設や公園等を使った園外保育等を行っているか	A	
	地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか	A	
	子育て支援機関と情報共有しながら、連携をとっているか	A	
	施設を開放し、地域の未就園児が遊べる場や機会の提供を行っているか	A	
	園だよりやクラスだより、ホームページ等で教育・保育内容を発信しているか	A	
	地域の連絡会等でこども園の取組みを発信し、地域の事業を教育・保育に生かしているか	A	
	地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか	A	
	施設内外の設備や遊具の安全点検を計画的に行っているか	A	
	遊具や用具等を、活用しやすいように整理、保管しているか	A	
	災害や不審者等に対応する整備を行っているか	A	
	掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか	A	
経理	各種会計を適切かつ適正に処理しているか	A	

【成果】

- ・開園から3年かけて目指したい園の姿や17項目の重点目標を職員によるSWOT分析により絞り込んだ。「自ら考え、自ら遊び、自ら行動するこども園」～子どもも大人も育ちあう関係づくりを目指して～を掲げ、一年間取り組んできました。町立園の取組みの良さを残しつつ、未来福祉会の取組みを新たに導入しながら環境整備や行事の内容の見直しも進めてきました。保護者の皆さまに上半期と下半期にアンケートを実施するなかで園運営の評価をしていただいた。概ね高評価をいただいた。（園だよりで評価結果公表）
- ・カリキュラム、保育記録の記入方法やあり方についても再検討しながら改善を進めて行く中で、子どもたちにとって今何が大切なのかを思考しながら工夫を重ねることができた。
- ・園だより、クラスだより、給食だよりや園ブログ、写真掲示等を活用し、子どもたちの遊びや学びの様子、主体的な活動の様子を保護者の皆さまにお伝えすることができた。
- ・特別支援教育・保育では、インクルーシブ教育・保育の理念に基づき集団の中で育ちあう関係作りを進めてきた。一人ひとりに寄り添う教育・保育を心がけ、子どもの理解者としてのあり方を模索した一年だった。
- ・栄養士や看護師の専門性を教育・保育に活かしながら子どもの育ちについて全職員で研究・研修を深めることができた。
- ・研究保育では、研究テーマ「主体的に遊びこむ子どもの育成のための環境構成や援助について」サブテーマ「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿に沿った保育の在り方とは」として、全クラスの研究保育を実施してきた。研究の仮説「子どもたちの成長や興味・関心、遊びの展開に合わせて環境（人的・物的・自然・社会）を整え、子どもの意欲を引き出す援助や声掛けをすることにより、子どもは主体的に遊び込むことができるのではないか」を設定し、子どもの興味関心をしっかり見取り、一人ひとりに合った援助はどうあるべきかを検証してきた。保育の質の向上を図ることができた。

- ・食物アレルギーに関して、エピペンを預かる園児が在園することから、年度当初に福大病院の協力により実技研修をすることができ、職員の対応力を深めることができた。
- ・給食についてもアレルギー対応についてさんざ真名たいおうを図ることができた。

【課題】

- ・コロナ禍の中で保護者参観や遠足などの行事に支障をきたすことが多くあった。保護者に園生活を直接ご覧いただく機会が持てない中、園ブログを発信し続け子どもたちの様子や保育の様子を保護者にお伝えしてきた。
- ・職員の家族や本人も新型コロナ感染が相次ぎ、日々の職員配置に苦慮することが多く、研究保育に参加できる職員が限られてしまった。
- ・保育実践のPDCAサイクルの中で、遊びの連続・非連続やこども主体の遊びの展開についてさらに検討が必要であった。
- ・ホームページに様々な情報を掲載すべきところをなかなか着手できず、後回しになってしまった。
- ・地域に在住する未就園児のご家庭向けの園庭開放「アザレルーム」については、コロナ禍ということもあり一度も開催することができなかった。

【改善策】

- ・コロナウイルスも5類になることから行事を見直し、できる限り保護者参加型行事ができるよう計画を立てて実施していく。
- ・保護者、町民の方にも園の様子を知っていただくためにブログ、ツイッター、動画配信等SNSを活用して発信していく。
- ・開園2年目は町内の関係機関とさらに連携し、地域に開かれたこども園づくりに本格的に取り組んでいく。